

# 柏崎におけるミズドクサ群落の新発見

佐藤 俊 男\*

ミズドクサ *Equisetum fluviatile* L. は、北方系のトクサ類で、北海道、本州中部以北に分布し、福井県敦賀市池ノ河内湿地が南限となっている。新潟県内においては、中魚沼郡津南町谷内マス池の群生地と南蒲原郡下田村吉ヶ平（生育数はわずかである）、北蒲原郡紫雲寺町藤塚浜阿房堀の群生地が知られているにすぎない。この中で、津南町の群生地は海拔約 500m であるが、紫雲寺町の群生地は海拔約 10m という低海拔である。ミズドクサは茎の高さ 50-100cm、太さ 5-10mm のトクサ科の植物で、湿地、湖沼や川の岸などの水中に群生する。また、茎は直立し、枝を出さないもの、まばらに不規則に出すもの、規則的に多数の枝を輪生させるものなど、いろいろである。中部以北、北海道に分布し、通常、水湿の低いところに生育する。

柏崎市における群落発見地（図 1）は、柏崎市久米（三つ子沢）のゴルフ場建設予定地内の溜池である（面積約 0.2ha）。筆者が 1993 年 6 月にトンボ調査のため本池へ行ったところ妙な形のトクサを発見した。その後（1994 年 6 月 4 日）、県自然環境保全審議会専門調査員の相沢陽一氏と調査に行ったところトクサ科のミズドクサであることがわかった。この池には、北方系の貴重なトンボであるカラカネトンボ、エゾイトトンボも多数生息しており、ミズドクサとともに寒いところから共存しあって生きのびてきたことがわかる。また、本池は紫雲寺町と同じ海拔約 50m と低海拔であることも貴重であり、規模からも津南町谷内マス池の群生に匹敵する。

また、本池は湧水もあり、たえず池の水の循環も行なわれており、昔からの状態で保存されてきたこともわかる。しかし、このため池は流域農民の灌漑用溜池でもあり、本年のように水不足の年は渇水状態であった。今後、写真からもわかるように池の陸化や水質汚染も考えられるので、何等かの保全策が必要であろう。

最後に御教示をいただいた新潟大学石沢 進助教授ならびに池上 義信先生に御礼申し上げます。

\* 柏崎市立博物館

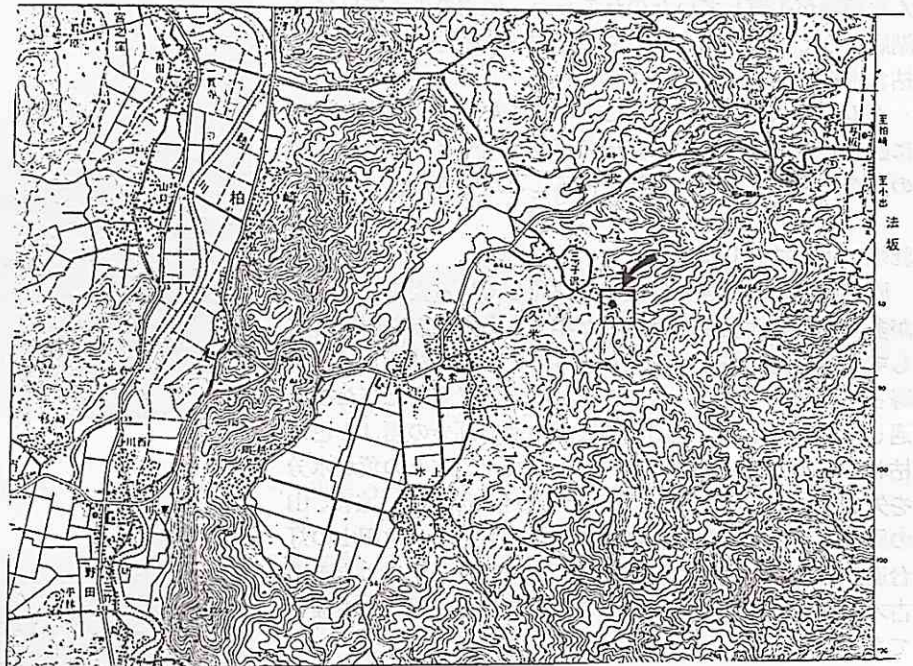


図 1. ミズドクサ発見位置図



図 2. ミズドクサ群落写真（写真の人物は筆者）